平成29年度 佐賀市立成章中学校 学校評価結果

1 学校教育目標 心豊かな、自ら学ぶ、活力のある生徒の育成 ～夢を語って、夢を形に～	2 本年度の重点目標 (1) 学力の向上 『主体的・対話的で深い学びを生む授業実践』, 家庭学習 (2) 生徒指導の充実 生徒理解 生徒会活動 認め合う集団 (3) 美しい学校づくり 生活環境 学習環境 掃除
---	--

達成度 A：ほぼ達成できた
B：概ね達成できた
C：やや不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 学力向上

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上 思考力を高め、感性を育てる主体的・対話的で深い学びを生む授業実践	①授業がわかりやすい、考えが深まったと感じる生徒の割合 ②全員の授業研究会を行う	①85%以上を目指す。 ②年7回以上実施する。	○教育課程の管理による時間数確保で授業で思考する場面を増やす。 ○授業の工夫として班活動、小グループ等をしくみ、考えを深める授業実践につなぐ ○年間計画に明記して、確実に実施	A	①88%(+3ポイント) ②年7回実施 よって達成できた。	①、②共に数値目標を達成している上に、①は平成28年度に比べ+5ポイントも改善しているため、平成30年度も本取組を継続したい。
教育活動	●健康・体づくり 基本的な生活・学習規律の定着	①朝、自分で起き、朝食をとることができている生徒の育成 ②自学(家庭学習の時間を確保)する生徒の育成	①自分で起きる生徒70%以上を目指す。 朝食をとる生徒90%以上を目指す。 ②学校外(家庭等)での学習を学年+1時間以上する生徒60%以上を目指す。	○家庭の学びの部会での推進や保護者への啓発(食育便り、学校保健委員会で作られた情報) ○研究組織の家庭の学び部会での小中連携による啓発 ○自学ノートの取組を学年、学校全体で行う。	A	①自分で起きる:81%(+11ポイント) ①朝食をとる:92%(+2ポイント) ②68%(+8ポイント) よって達成できた。	①、②共に数値目標を達成している上に、②は平成28年度に比べ+10ポイントも増加しているため、平成30年度も本取組を継続したい。

② 生徒指導の充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
特定課題	○生徒理解に基づいた生徒指導推進(共感的人間関係、自己存在感、自己決定)	①自分に良いところがあると自覚できる生徒の育成 ②生徒の話に耳を傾けてくれる先生	①良いところがあると自覚できる生徒60%以上を目指す ②先生は、生徒のために一生懸命に関わってくれると思う生徒の割合80%以上を目指す。	○生徒指導協議会、教育相談部会での職員研修 ○教育相談期間の充実 ○グループワークの確立と有効な実践	A	①71%(+11ポイント) ②91%(+11ポイント) よって達成できた。	①、②共に数値目標を達成している上に、平成28年度に比べ①は+7ポイント、②は+5ポイントも増加しているため、平成30年度も本取組を継続したい。
教育活動	●心の教育 人権・同和教育の充実	①他の人に対する思いやりを持って行動する生徒の育成 ②良い人間関係を築いているという自覚のある生徒の育成	①について90%以上を目指す。 ②について90%以上を目指す。	○ふれあい道徳を含めた道徳教育の実践 ○人権・同和教育の計画的実践	B	①94%(+4ポイント) ②87%(+3ポイント) よって概ね達成できた。	①は数値目標を達成した上に、平成28年度比+4ポイント増加したが、②は数値目標を達成できなかった上に、平成28年度比±0ポイントであった。「平成29年度学校における人権・同和教育推進状況に関する調査」においても人権・同和教育の計画的実践をより推進する必要性を感じたので、平成30年度は教科と領域をより連携した取組を計画したい。
教育活動	●いじめの問題への対応	早期発見、早期対応を進める	毎月、月初めにアンケートを実施し、結果を共有する。	○毎月一回のいじめ。命を考える日における学校全体の資料作成と、アンケートの実施	A	早期発見、早期対応だけでなく、未然防止に積極的に取り組み、アンケート前後の聞き取り及び指導を充実させた。	平成30年度も本取組を継続したい。

③ 美しい学校づくり

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
特定課題	生活環境の整備・清掃	①熱心に清掃に取り組む生徒の育成 ②教室環境の整備	①清掃に熱心に取り組む生徒90%以上 ②整理・整頓、掲示の共通理解を図る。	○生徒とともに、職員も清掃活動をする。 ○清掃のやり方についてオリエンテーションをする。 ○美しい学校づくりの係より、年度当初に教室内の環境整備について提案し、実行する。	A	①92%(+2ポイント) ②東部教育事務所の訪問の指導事項を生かし、教室環境の改善に取り組んだ。 よって達成できた。	①は数値目標を達成した上に、平成28年度比+5ポイント増加した。 ②についても校内研修や職員会議を通しての指導を行い改善したので、平成30年度も本取組を継続したい。
特定課題	学習環境の創造	意欲的に学習に取り組む生徒の育成	①学校生活が楽しいと感じる生徒90%以上を目指す。	○仲間作りや、授業改善『聴く・聴きあう』を進める。	A	①92%(+2ポイント) よって達成できた。	①は数値目標を達成した上に、平成28年度比+2ポイント増加したため、平成30年度も本取組を継続したい。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
教育活動	●教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	教職員のICT活用教育における質の向上を図る	ICT活用により授業の質の向上を図った先生100%を目指す。	ICTを取り入れた授業の授業研究会を実施する。	A	ICT活用教育を念頭に置いた校内授業研究会年7回行い、授業検討会で更に質の向上を図った	授業研究会の回数と授業検討会の1グループ当たりの差人数が反比例しているため、教育事務所や市教育委員会からの参加を依頼したい。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

本年度の目標はほぼ達成できている。良い人間関係を築いているという自覚のある生徒の育成のみ目標に届かなかった。しかし、「聴く・聴きあう」関係づくりをキーワードに授業改善を進めてきたことやきめ細かな生徒指導を積み上げてきた結果、学校全体として教育活動の充実が図られている。
全教員が年1回授業を公開する校内研修を実施していることで、研究主題及び研究の内容・方法等が実践に伴って周知され、個々の教員の授業改善が進んでいる。これが学校全体教員の指導力の向上に大きく寄与している。
目標に届かなかった項目に対しては、平成30年度の重点項目として改善に取り組んでいきたい。また、国立教育政策研究所発行の生徒指導リーフで取り上げられた、「教育的予防と治療的予防」の考え方を取り入れた生徒指導を研究し、学校行事等で生徒に出番を与え、生徒に役割を選択させ、教職員の指導により成功体験をつませた上で承認するというスパイラルを、入学から卒業まで行っていく必要がある。その際、一人ひとりの良さをほめるとともに、夢や目標づくりに向けた指導を意識的に行っていく必要がある。

●は共通評価項目、○は独自評価項目